フランスのスーパーでプロセッコがシャンパーニュを上回る

イタリアのワイン関連団体は、2026年7月までの1年間の結果が、シャンパーニュの本場フランスでの嗜好の変化を示すと述べた

2026年11月16日（月）



イタリア全国ワイン都市協会のアンジェロ・ラディカ会長が11月16日（月）に明らかにした数値によると、2026年7月までの12カ月間、フランスのスーパーマーケットとハイパーマーケットでは、シャンパーニュよりプロセッコの販売量が多かった。

同協会が発表した声明でラディカ会長は、この結果はシャンパーニュの本場であるフランスで、消費者の習慣に変化が起きていることを示していると述べた。また、イタリアを代表するスパークリングワインの一つが生まれた歴史的な産地、コネリアーノとヴァルドッビアーデネ地域にとって、プロセッコの好調は誇りだと語った。

イタリア語でCittà del Vinoとして知られる同協会は、ワイン生産の伝統を持つ500以上の自治体を代表している。声明でラディカ会長は、このデータはフランスの購買傾向に関する従来の見方を覆すほど強いものだと述べた。長年シャンパーニュと結び付けられてきた国においても、新たな消費形態に対応するプロセッコの力が、その成長を支えていると主張した。

声明には、販売数量や市場シェアの内訳、数値の出典は記載されていなかった。また、対象はスーパーマーケットやハイパーマーケットを一般に含む大規模小売に限られており、フランスのワイン市場全体を示すものではない。そのため、レストラン、バー、ホテル、専門ワインショップでの販売は含まれていない可能性があり、そうした場所では小売チェーンとは販売傾向が大きく異なることもある。

それでも、この主張は、シャンパーニュが文化面でも商業面でも大きな存在感を持つフランスに関するものだけに、象徴的な意味がある。イタリアの生産者にとって、プロセッコが同国で棚のスペースを広げ、消費者の需要を獲得している兆候は、重要な商業シグナルと受け止められるだろう。

ラディカ会長は、この成功をヴェネト州のコネリアーノとヴァルドッビアーデネ地域と結び付けた。同地域は高級プロセッコの産地として広く知られる。同会長は、この地域のアイデンティティーと国際的な評価が、ワインの成長を支えてきたと述べた。コネリアーノとヴァルドッビアーデネの丘陵地帯は、2019年にユネスコ世界遺産に登録された。

同じ声明でラディカ会長は、協会が2026年と2027年の「イタリア・ワイン都市」プログラムの対象地として、同地域と南部バジリカータ州のヴルトゥーレ地域を選んだ後も、地域の持続的な成長を支援できることを喜ばしく思うと述べた。このプログラムは、ワイン産地に光を当て、観光、地域文化、農業生産を促進するために活用されている。

プロセッコはこの20年ほどで、イタリアを代表するワイン輸出品の一つとなった。幅広い価格帯のスパークリングワインに対する国際的な需要が、その成長を後押ししてきた。飲みやすさ、シャンパーニュより平均価格が低いこと、海外の小売市場で強い流通網を持つことが、成長の要因としてしばしば挙げられている。Città del Vinoの声明はこうした要因に直接触れていないが、ラディカ会長は、より新しい消費者の嗜好に応える力がプロセッコの台頭を支えていると述べた。

声明には、フランスのシャンパーニュ生産者や業界団体からの反応は含まれていなかった。発表は、外国産スパークリングワインのブランドにとって従来は難しい市場と見なされてきたフランスで、イタリアワインにとって節目となる出来事だという、協会の見方に焦点を当てていた。